



村の花/ひめさゆり

アイツユリやサツユリとも称され、高郷村に典型的な会津地方の日常たりのよい山地に自生する日本固有種。5〜7月に紅紫色の可憐な花を咲かせます。塩峯峠の自生地で保護・増殖が図られています。



村の鳥/ウグイス

高郷村の山地のような、ササの密生する明るい雑木林やヤブに住み、冬は人里近くに移る漂鳥。スズメほどの大きさで暗緑色、下面は灰白色。ホーホケキョがさえずりで、チャッチャッは、巣づくりの笹鳴き。



村の木/ケヤキ

川と緑の里のシンボル。川畔に多く、岩場ではモミジとの組み合わせが美しい。古くから日本海と会津盆地を結ぶ道すじに位置する高郷村の村里の日陰木や屋敷林に多く、用材として暮らしを支えてきました。

めやかな野生の楽園に恵まれた自

村里は、その豊かな水と緑、秘

七〇〇平方キロの流れを集めた阿

賀川が蛇行しながら森に包まれた

伏流水を集めた清流たち。

高郷村はその合流点に位置し、

猪苗代湖の五五倍、流域面積五

津の床しい民俗を映して溪谷美を

描く只見川。それに、秘境飯豊の

城下町や沃野を潤し悠々と流れ下

る大川。尾瀬の可憐な花暦や奥会

活を営む空間の豊かさが重要視さ

れつつあるのです。

空間の豊かさは、なんと

新宿の二五〇倍!!

磐梯高原の湖沼群、会津盆地の

城下町や沃野を潤し悠々と流れ下

る大川。尾瀬の可憐な花暦や奥会

津の床しい民俗を映して溪谷美を

描く只見川。それに、秘境飯豊の

城下町や沃野を潤し悠々と流れ下

る大川。尾瀬の可憐な花暦や奥会

津の床しい民俗を映して溪谷美を

描く只見川。それに、秘境飯豊の

城下町や沃野を潤し悠々と流れ下

る大川。尾瀬の可憐な花暦や奥会

津の床しい民俗を映して溪谷美を

描く只見川。それに、秘境飯豊の

城下町や沃野を潤し悠々と流れ下

# 21

世紀へ向かうわたくし  
たちの社会は、個人の  
生活を重視する志向が  
高まっています。暮らしのゆとり  
や豊かさを積極的に味わい楽しも  
うとする生活への価値観が高まっ  
ており、その心豊かなゆとり社会  
を実現する指標の一つとして、生  
活を営む空間の豊かさが重要視さ  
れつつあるのです。



# 「たかさ」との魅力は 川と緑の風景から。

然環境に抱かれています。

村の人口密度は六〇人/平方キ

ロ。東京の新宿区の約一六、〇〇

〇人に比べ、何と四%にも満たな

いのです。

若者流出なだれが続き、

今では村の人口が半分に。

高郷村誕生の翌年、昭和三年

(一九五六)の経済白書は、戦後

の回復による成長から、近代化に

よる成長への移行を叫び、農業な

ど経済社会の遅れた部分は、一時

的に矛盾が激成されるごとく感じ

るかもしれないとレポート。

今日の世界に冠たる経済大国へ

の道を歩む高度経済成長にともな

い、全国的に都市への人口流出が

続き、高郷村でも五七%に激減し

て今日に至っているのです。

環境創造の時代を迎えて

見つめ直される郷土の山野。

その間、過疎化が進む農村の活

性をめざして農業基盤整備が促

進され、畑地五〇%水田三九%の

耕地は、水田八二%畑地一六%に

逆転。そして、

郷土の発展を阻

害しているかに

さえ思えた林野

も、自然観光リ

ゾート開発に絶

好の資源として

脚光を浴びつつ

ありました。

しかし、郷土

空間づくりはい

ま、自然環境を

意のままに変容

し続ける開発主義から環境主義

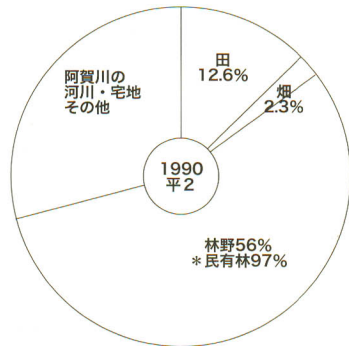
へ、自然を隔離する環境保全型か

ら、自然と共生していくための環



只見川・阿賀川の河岸段丘に発達した集落 高寺山上空から望む。

海と結ぶ歴史の道と。和紙と。葉たばこと。只見川流域創出の夢、無尽蔵!! 南会津山地の年間50億トンに達する水量を集める延長137kmの只見川が阿賀川に合流する地点。農業基盤整備事業により1戸平均約5倍になった水田地域。村里には、歴史の道と和紙や葉たばこの畑作時代の床しい民俗を秘めています。



境創造型の発想へと転換を始め  
ています。その川と緑の美しい  
自然公園そのものの郷土の魅力  
が高郷には息づいていたのです。  
二十一世紀は環境創造の時代。  
そして、郷土の原風景と対話の  
時代。わたくしたちは、心の豊  
かさが実感できる職・住・遊の  
融合した郷土づくりのありかた  
を、この郷土が誇る中山間地の  
魅力溢れる農村空間とそのくら  
しの伝統に学びます。